

使われなくなった
ノコギリ屋根工場
今後を語る座談会

のこぎり座

報告書

座談会内容

- 一、ノコギリ屋根工場活用事例紹介
- 二、絹織物のまち桐生市との繋がり
- 三、一宮市ノコギリ屋根工場の今後

日時、平成二十八年十一月三日

午後二時より

場所、平松毛織株式会社工場

一宮市笹屋四丁目十一番十三号

「のこ座」報告

平成 28 年 11 月 3 日 文化の日、

ノコギリ屋根工場の今後を探る座談会「のこ座」を開きました。

『えっ?!なんで一宮市はのこぎり屋根を活用しんの?』というお話を二時間半しました。工場内という決して快適とは言えない空間でしたが、約 30 名の方にお集まり頂きました。心から感謝いたします。

一宮市に 2000 棟近くあると言われているノコギリ屋根工場は、使われていないままに放置されている工場が数多くあります。この地域を支えてきたそれらの工場を町の記憶として残すため、活用していくことが迫られている時期にあります。地域の歴史を伝え、一宮にしかない独特の風景をつくり、人と人とを繋げる可能性が、ノコギリ屋根工場にはあると信じています。

世代が変わり、壊されていく工場がどんどん増えていきます。愛着のある工場を、泣く泣く壊される持ち主の方もおられました。もし工場の活用法が見つければ、壊さなくて済む工場もたくさんあると思います。活用法を持ち主のご家族だけで見つけ出すのは困難です。たくさんの人とのつながりがなければ活路は見出せません。

今回の座談会は、工場オーナーの方々、ユーザーになる可能性がある地域の方々、その人達を繋げることができる市役所や商工会議所の方々、土地建物のプロである建設会社の方々と一緒に、今後のノコギリ屋根工場の辿る道を話し合いたく、開催する運びとなりました。

まずはじめに、工場活用事例を三件紹介しました。

「のこぎりニ」平松毛織株式会社 平松久典 建築家

20 年前に繊維産業から撤退した同会社は撤退後 10 年間は貸し倉庫、その後は家族の物置になっていた。2 年前、工場解体の話があがったが、現在は存続し、ギャラリー、アトリエ、カフェとして活用されている。当座談会「のこ座」の会場でもある。

「家具工房 TRUNK」福岡幹夫 家具職人

昔映画で見たノコギリ屋根工場に憧れ、自身の家具工房をノコギリ屋根工場で営んでいる。14 年前、尾西商工会にノコギリ屋根工場への熱い想いを訴え、やっとの思いで空き工場と巡り会い、賃貸契約を結んだ。ノコギリ屋根工場を残していきたいという想いは強い。

「つくる。」古川乾提 庭師

庭の解体依頼で訪れた現場に果てしない可能性を感じ、そこを買い取る。現在は「つくる。」として新しい場所に生まれ変わっている。母屋、庭、工場が一体となったおおらかな空間。地域だけではなく、国際的な繋がりをもった様々なイベントが催され人々で賑わっている。



その後、一宮市のモデルとなり得る織物のまち桐生市の活動を紹介しました。桐生市は民間と行政がうまく連携しており、ノコギリ屋根工場の活用が進んでいます。何十年にもおよぶ桐生市の弛まぬ努力と情熱を、現地の写真や資料を交えて説明しました。特筆すべきは、桐生商工会議所が工場所有者にアンケートをとった際、『工場を活用したい』と回答した所有者が7割いたということです。東京の美術大学が桐生の街並や建物を舞台に、制作活動を行ったり、『わがまち風景賞』で「風景としてのノコギリ屋根工場」という認識を市民で共有されたりしていることが、町の資源をもう一度見直すきっかけとなっています。桐生市の重要な活動として、「お掃除探検プロジェクト」というものがあります。商工会議所、ボランティアの人が協力して工場の掃除をしていくという活動ですが、工場所有者と市民や行政との繋がりをつくる一翼を担っています。

最期に、一宮市が今後どのように工場を活用していけるのか話し合いました。

一宮商工会議所 青柳勝さん、JTB 吉田和正さん

「観光資源を見つける 産業観光モデルルートの作成」

ノコギリ屋根工場オーナー野田さん

「学び場としての工場 ドキュメンタリー映画の自主上映」

同じく工場オーナー中村さん

「工場活用できない 工場と母屋の近すぎる位置関係」

地方計画にも携わる今枝忠彦さん

「工場空間への身体順応 稼ぐ場としての工場を知らない世代の可能性
ものづくりの場としての資産」

アーティストの西村正徳さん

「工場とテキスタイルアートとの融合 北光線との反応」

対話計画 藤森幹人さん

「パリのアトリエにもつながる質の高い光の天窗」

暮らしの道具をつくる加茂麻穂里さん

「ノコギリ屋根残したい 自分の家にも北の天窗をつくった」

ライター 青木俊克さん

「掃除が教えてくれること 工場の中に入るきっかけづくり」





民芸家具ギャラリー美卯 松原美穂子さん
「古民家活用もいいけどノコギリ屋根もいいなあ」

市議会議員 高橋一さん
「民間所有の文化財 のこぎり工場を残すための条例づくり」

手作り衣食住おおきひろこさん
「失われた 30 年 伝承されなかったもの 話す場を求めている」

中小企業診断士 東野礼さん
「持続するためのお金を生み出す運営システム」

中外国島株式会社相談役 伊藤正樹さん
「どちらも必要、文化とそろばん 工場・母屋・庭の総合的な活用 工場の次なる役目」

ノコギリ屋根工場カフェオーナー 岩本拓也
「一宮に友達を呼びたい 一宮を誇れるまちにしたい」

この座談会では皆さんの認識や感じたことを共有でき、意義あるものでした。新しいアイデアはもちろん必要ですが、自分が理解していることを、他人も理解しているという認識を持てることは、とても大切なことだと思います。これからノコギリ屋根工場の活用を広めていくときに必ず必要になってくる、オーナーとユーザーとの人間関係は、簡単に作り上げられるものではありません。お互いの認識の共有が信頼につながり、運動となっていく日を目指して、今後も活動していきたいと思います。

座談会中に紹介した Textile Town Map は、オンライン上のノコギリ屋根工場マップです。現地で見かけた工場の写真や詳細を地図上にだれでも投稿することができます。

自分の町は自分で守る、そうゆう気風がもっと浸透すればいいなと思って作りました。

<http://textiletown.net/>

次回座談会は平成 28 年 12 月 23 日を予定しています。主題は「掃除」。実際に空き工場を掃除しながら、工場との関わり方を探ります。今後ともよろしくお願い致します。

最後に、当日座談会の撮影、録画をしていただいた岡根智美さんに、この場をお借りして感謝を申し上げます。ありがとうございます。

平松毛織株式会社取締役 平松久典

